

## 農事組合法人として取り組むメリット

### 農地の集約化

バラバラで管理していた個人の農地が法人に集約されるため、作業が効率化されます。また、農業を辞めることを考える場合にも、法人が農地の担い手となるという選択肢が増え、耕作放棄地の減少も期待できます。

### 機械利用の効率化

法人として経営を一本化できるため、必要な機械や設備を個人で整備する必要がなくなります。法人の機械を共有することで、大きなコスト削減につながります。

### 新たな取り組み

新規作物や最新の農業機械の導入など、個人では費用面、労力面から取り組みにくいことにも、法人で一体的に取り組むことができます。地域全体の農業の維持発展の大きな力となります。

国が実施する農林業センサスの結果を見ると、農業従事者数は、平成27年から令和2年までの5年間で全国で約40万人減少しています。進む高齢化や農作物の安定生産の観点からも、農業人口の減少は、長年続く農業の課題の1つです。

こうした農業の担い手の減少は、耕作されない農地の増加にもつながります。管理されない農地は、景観の悪化を招くだけでなく、害虫が発生したり、野生生物のすみかになったりと、近くの農地にも悪影響を及ぼします。

## 農事組合法人として

### 活動する理由

地域の農業を維持していくためには何か手を打たなければ—そうした課題解決に向けて始まった取り組みの1つが「農事組合法人」を立ち上げることです。

農事組合法人では、農業者が個人経営ではなく、それぞれの地区で法人として人材、資産、資本を集めて効率的に経営を進めていきます。具体的には次のようなメリットが期待されます。



## 地域の農業を守る 農事組合法人

## 法人独自の取り組み

6つの法人は、もち米やWCS（※1）の栽培を中心に活動しています。その一方、法人独自の取り組みも多く見られます。それぞれの代表の方に、お話を聞きました。

### 野津南

平成28年3月設立



村上 恵さん

新規作物のじゃがいもの栽培に取り組み、学校給食への寄附を行うなど社会貢献活動も行っています。

### アグリ吉野

平成28年3月設立



本田 隆雄さん

コストがかさんでしまいがちな農薬なども大型規格のものを採用し、生産費の削減につなげています。

### アグリ鹿島

平成29年2月設立



中村 辰弘さん

労働時間の短縮と低コストを実現するため、苗づくりから田植えまで新しい技術を試験的に導入しています。

5月31日と6月1日の学校給食のメニューに、じゃがいもを使ったシェパースパイとうま煮が登場しました。使われたじゃがいもは、5月25日に農事組合法人野津南から寄付されたものです。寄付の総量は約100キログラム。新型コロナウイルス感染症の影響で中断はあったものの、寄付は5年以上続けられています。

